岩内町立岩内東小学校　学校だより

東風

○月○日

令和２年４月１０日発行　第１号

教育目標

『明るく伸びる子』
○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子
○じょうぶな子

【重点目標】
認め合い　支え合い　高め合う　東小の子

4月　認め合い　支え合い　高め合う　東小の子

岩内東小学校長　齊　藤　信　之

長く続いた休校と春休みが明け、不安を残しながらも何とか新学期を迎えることができました。保護者の皆様には、長期間にわたりご心配やご迷惑をおかけしました。そのような中にあっても、学校を取り巻く状況をご理解いただき、様々にご協力いただきましたことに心から感謝いたします。終わりの見えない厳しい状況は依然として続いていますが、予防策を講じながら学校としての営みを続けていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

終わりと始まりの区切りがはっきりしないまま、何となく進級してしまったことに戸惑いを感じている子もいるようですが、どの子も新しい出会いに胸を膨らませ、楽しく毎日を送っています。新しい風に乗って、より高く、より遠くを目指して力強く羽ばたいている姿が見られていることをうれしく思っています。また、入学したばかりの１年生も少しずつ慣れ、元気に登校しています。１年生のしっかりした挨拶に驚いています。立ち止まり目を合わせて礼をするのです。また、後輩の１年生を見つめる２年生の眼差しには、優しさとともに自信があふれています。

「認め合い、支え合い、高め合う　東小の子」

これは、本校の本年度の重点目標です。目の前の子どもたちは、どの子も未来の創り手として新たな時代を生きる主役です。ですから、学校教育には社会の担い手として活躍するために必要な資質や能力を育むことが求められます。時代とともに学び方が変わっています。古くは、学校での学びは一斉の講義型で、伝授された知識をどれだけ覚えたかの尺度で評価される極めて受け身のものでした。今は、自分事として積極的に課題に立ち向かい、他者との対話を通して考えを広げたり深めたり、あるいは新しい発見をしていくような主体的で能動的な学びが重視されています。実社会で直面する問題を乗り越える際に役立つのは、知識の量ではなく、こうして他の人と力を合わせ、経験や知識を総合的に活用しながら協働的に解決していくことのできる汎用的な力だからです。

このような学びの実現するためには、子ども相互の対等性が重要です。優位に立つ子と劣位に甘んじる子、主張ばかりする子と聞くだけになってしまっている子など、固定化した関係の中では成立しません。受容的で共感的な雰囲気の中で誰もが対等に参加できる学びでなければなりません。目指す深い学びを実現させる鍵は、子ども相互の対等性です。重点に定めた意図を保護者の皆様にも理解いただき、「一人一人を大切にする東小教育」への挑戦を始めてまいります。

新学期を迎え、保護者の皆さんから手作りマスクのご寄贈をいただいております。再開した学校への心のこもった温かな応援メッセージとして大変有難く、心強く思っています。皆さんのご厚情に心から感謝いたします。